

平成 29 年度 高齢者支え合いコミュニティ支援事業団体

町内会概要			
組織名	昭和村小野川区会	代 表	区長 渡部忠雄
地域（市町村）	南会津（昭和村）	加入世帯数（人数）	43 世帯（104 名）
写 真 概 要			
（１）自治会の主な活動 月 1 回地区勉強会（＋交流会）、お花見、一斉耕起、地区のお祭り、地域のクリーンアップ（清掃）、収穫祭、他県との交流、蕎麦会、大学生の地域研修受け入れ等 （２）自治会の特徴 千年以上続いた集落の歴史が培った「住民同士の支え合い」が色濃く残った地域である。昭和村自体が超高齢過疎地の限界集落であり、平成 30 年半ばに開通予定の「国道 401 号博士トンネル（会津美里町と昭和村を結び、現在の昭和村と会津若松市の所要時間が 20 分弱短縮される）」を一つの契機として、地区の好転事業と据えていきたいと考えている。 （３）今年度実施事業 小野川区会高齢者支援支え合いコミュニティ支援事業 （４）事業の主な活動内容（具体的活動は上記の主な活動に同じ） 震災により超高齢化した浪江町で花卉栽培や農業を主体に地域復興を目指す団体との交流し、その取り組みを小野川区域の将来モデルとして据え、月 1 回の勉強会を実施する。 （５）本活動を実施することの背景 高齢化率が 55%を超えた超高齢過疎地の限界集落を脱するために、まずは息子世代の UI ターンでできるよう「住みたい」と思えるような将来性のある地域づくりが必要である。震災によって機関困難となった浪江町にある NPO 法人 JIN の活動・目的が「高齢者や障がい者を復興の主体として、そこに住む住民自身が農業を通じた将来の地域づくりに取り組んでおり、そのために地域の住民が自らの利を生かしつつ魅力ある地域づくりを目指す」ことであり、昭和村の状況においても連携しながら、将来を目指していくことは必要であると考え、その手法をお互いに学び合いながら魅力ある地域づくりを目指していきたい。 ＜浪江町との連携から生まれる昭和村の未来に向けて＞ まずは若い世代の U ターンを目指す昭和村にとって、今コミュニティの再興を目指す浪江町の現状と重なる部分も多い。福島県内同士、お互いの地域が学び合う意義は大きいという考えのもと、取材日は小野川区の町民が実際に浪江町を訪れて視察や意見交換を行った。同じ生活を送るのであれば将来へ繋げられるよう今この瞬間を大切にしていけることが、ここにいる者の責務であると区長の渡部さんは話されていた。昭和村も浪江町も将来に向けて動き出している。			

①区長の渡部忠雄さんは「厳しい状況に下を向くのではなく少しでも良い方向に進めていきたい」とのことであった。



③「昭和村の土とは全然違うなあ」と話しながら、その違いについて熱心について熱心に訊ねていた。



②11月下旬に浪江町で花卉栽培を行っているNPO法人JINを訪れ、栽培の様子を見学したり意見交換等を行った。



④ 11月に下郷町にある大内宿の代表を講師として呼び、地域づくりについて学んだ。

